

地域にとけ込んで暮らす幸せ 外出支援を積極的に行っています

相良ホーム長の ご利用者ファースト

『失敗しよう』

今期、プロ野球チームのオリックスバファローズが、補逸ゼロという前代未聞の記録を達成した。捕手がシーズンを通して、ピッチャーが投げたボールを一度も逸らさなかったという記録で、一試合に200球程投げってくるボールを130試合一度もエラーしなかったことになり、プロ野球史上初の記録だそうだ。確かに、すごいことなのだが、疑問に思うことは、そんなすごいことが出来るチームが最下位だということだ。

ふと、思う。捕手が簡単に捕れるようなボールしか投げていなかったんじゃないかと。やはりバッターを押さえるには、捕手も必死に止めに行くぐらいのボールを投げなければ打ち取ることはできない。ミスをおそれたボールを投げた結果、打たれるという一番大きなミスをしてしまっている。そんな事がホーム内にもあるんじゃないか、反省しなければならぬ。

ご利用者に関していえば、転倒が怖いからと、やみくもに座ったままにさせていないだろうか。本当の失敗は、歩けなくなる事。大袈裟に怖がらず、自然に歩いてもらう。

包丁が危ないと、職員ばかりが調理をしていないだろうか。職員が一生懸命調理をして、職員が満足感で満たされてどうするのか?ご利用者が達成感を味わえるように、支える事が仕事ではないのか。

職員に関して言えば、今までの経験にしがみついて、判断の基準を今までのやり方に置いていないだろうか。確かに、今までのやり方なら、失敗はないだろう。しかし、判断の基準は、ご利用者が幸せになること。有する能力に応じた自立が出来ることを目的にして考えなくてはならない。ご利用者を第一に考えて行動しようと職員が行動する為には、失敗を責めたりする職場環境では、誰も挑戦しなくなってしまう。

だから、まずは堂々と失敗できるホームにしたいと考えている。



敬老会&懇談会



9月18日(日)すべてのご入居者のご家族様
が参加され賑やかな会となりました。

チャリティバザー開催



10月29日(土)
愛隣会のバザーが開催
されました。
法人内のお店
を回り、衣類
や陶器など
買い物を楽し
まれました。



こまば写真館

日々の写真をホームに
掲示することになりました。
楽しい写真がたくさん
あります。ご家族様は
ご自由にお持ち帰り下
さい。



あたりまえの楽しい食事を

食事委員 三浦智津江

食欲の秋です。ご入居者の皆さんも食欲全開です。嬉しいことです。ホームでは以前にも増して、ご入居者に食事作りに参加して頂いています。何しろ、ご入居者は皆さん元主婦です。食事作りにはキャリアがおります。皆さんには切る、和える、味見、盛り付けを行って頂いています。皆さん食材をきれいに切られますが、時に大きいのが、小さいのがあります。しかしこれが家庭のおかず。「今日は大きいから箸を使って上手に食べてくださいね。」「今日は小さ過ぎて、歯ごたえが無いね。」などと言いながら食事をするのは楽しいものです。

食事作りで楽しいのは、何と言っても味見(つまみ食い?)です。まずは職員が味付けしてご入居者に何が足りないかを聞いています。味付けを決めるのはご入居者さんです。みんなで「うーん...?」「美味しい!これでよし」などと楽しい会話が聞かれます。

以前は、食材選びや具の大きさ、柔らかさ、食事の量を、高齢者なのだからと無難に食べ易いようにと、手を加え過ぎたところがありました。今はご自分で箸を使って食べ易いように魚や野菜を小分けにして召し上がっています。

ミカンやバナナはご自分で皮を剥いて(当たり前のことですが)口に運び、自分で噛んで、味をしっかりと楽しんで頂いています。何よりも噛まなくては、美味しさは分かりませんから。

また、以前は食べ過ぎを心配することから食事量を減らし、不足する繊維質などはファイバー(食物繊維)やオリゴ糖で補っていました。しかし今はそれを止め、お食事をしっかりと摂ることによりお通じトラブルが改善されたように思います。やはり普通の食事での自然なお通じが何よりということです。

美味しさとは味はもちろんですが、食卓の雰囲気、見た目、食べ物の温度、匂い、歯触り、のど越しなどがあると思われま。それらすべてを大切にしたいと思えます。毎日の食事では、味が薄かったり濃かったり、湯呑みが倒れたり、ご飯が溢れたり、と色々あります。しかし、こんなことがご家庭の日常の食卓であったはずです。ホームでも、ご家庭と変わらず普通の食事をみんなで作り、普通の食卓を目指しています。

とにかく楽しい食事にしたいと思います。

